

研修だより

北海道札幌養護学校
令和5年11月30日発行
〈第1号〉

今年度の研究テーマは、「児童生徒一人一人の主体的な学びと自立を目指した授業づくり～卒業後の生活を見据えた、学びの連続性とライフステージを意識して～」となっています。本校の教育の基本方針にも「卒業後の生活を見据え」、「発達段階や生活年齢を考慮し」、「自立と社会参加に向けた系統的な教育活動」「キャリア発達の支援の観点」が示されており、本校の児童生徒にとって「主体的な学び」や「自立を目指した取り組み」は、重要課題のひとつと言えます。

今回の研修だよりでは、研究テーマや上記のような本校の重点課題を受けて、「主体的な学びを目指した取り組み」の交流として小学部の事例検討の様子と、夏の教材教具展についてお伝えします。

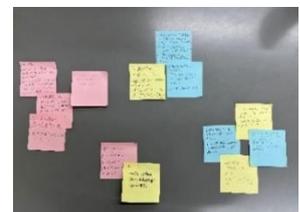
事例検討の様子（小学部）（9月13日・11月15日）

今年度は各学部で事例検討による研修を行いました。今回は小学部の様子をお伝えします。

小学部では、各学年で対象事例児を1名選出してもらい（小5は2名）、「主体的な学びが難しい場面」「現在（9月）の様子」、「行動の背景」「目標と指導の手立て」という項目に沿って実態や困りごとを伝えた後、「学部の職員に意見をもらいたい事柄」について付せんを用いた方法で交流しました。どの学年も、事例検討シートの他に児童の様子が分かりやすい動画を使いながら発表をし、普段あまり関わりのない他の学年の児童の様子もとても分かりやすく伝えていました。また、付せんを用いた意見交流では、困りごとに対して「分かる！」「大変ですよ」「先生達が協力して取り組んでいるのが伝わってきた」等々、日々の指導や苦勞に対して寄り添ったりお互いに労ったりするのはもちろん、小さな付せんに過去の指導経験から具体的なアドバイスを書いている職員もいてとても濃密で実りのある時間を過ごすことができました！以下実際に事例発表をした職員による感想です。

「体育でのラジオ体操における事例を発表しました。先生方から『まずは1つの動きの模倣から』『楽しく！』等たくさんのアドバイスをいただき、前向きに指導の改善を行うことができました。」（小5）

「集中が続かない」「学習の見通しをもちにくい」「音や視覚的な刺激に弱い」ということに対して先生方からアドバイスをいただきました。「続けることが大切！」など、温かい意見が多く、現在行っている内容（キーノートのスライドを予習する、事前に制作の練習をする）を後押ししていただきました。（小6）



夏の教材教具展

7月25日～8月15日の期間ふれあいホールを会場に教材教具展を行いました。学校全体に公募し、ICT教材・手作りの布教材・プリント教材等々…普段の授業の中で実際に使用している教材が合計58点集まりました。公募にあたっては、今年度は7月の校内研修の中で教材カードの作成と交流を行ったことで、先生方の負担を軽減できたという意見をいただきました。

また、今回は付せんを設置するという新しい試みにもチャレンジしてみましたが、なかなか上手に活用するまでは至らなかったようなので、冬の教材教具展でも教材の交流だけに終始せず、教材作りに対するモチベーションがお互いにアップするような取り組みをまた考えて提案してみたいと思います。冬の教材教具展に向けて、またご準備・ご協力よろしくお願いします！

